

2016年4月-5月

東日本大震災の発生から5年が過ぎました。被災地は、10年目に向かって、自立が強調される段階へと移行し始めています。浮かび上がって来る様々な課題を想定しつつ、個人と向き合い、また、クリスチャンとしての今後の課題にも取り組みたいと考えています。そこでまず私自身がこの5年間を振り返り、文書にて整理することで、今までを無駄にすることなく、今後のビジョンを掲げる必要性に迫られています。

さらにもう一つ、「整理」の必要性に迫られた理由は、教会での牧会の失敗とその隔たりを感じたからです。

震災直後から、教会自体に以前の様なゆとりがなくなりました。次々と迫る震災支援の活動は、自分の意思とは関係なく広がり、私だけではなく家族全体にまで及ぶようになりました。この忙しさは、様々な発見と、関係を築くことの大切さを学ぶ良き機会となり、また、聖書を立体的に捉える幸いな機会ともなりました。それは、それまで気がつかなかったことに気づいた良い刺激を受けるときとなりました。以前の私を知る人は、「中澤先生は変わった」と言われます。自分では変わっていないと思っていましたが、振り返ると、被災地での新たな発見が、私の考えも行動も変えたのかもしれません。

特に、教会での牧会を通して以前から関わって来た方々、精神的に悩む人たちにとっては、私の被災地での活動は苛立ちを誘うものでしかなかったのかも知れません。実に、自教会では配慮が欠けていたとしか言えません。私の心情は、以前から「病む者とともにいる」でしたが、それが被災地へと向き、自教会ではおろそかになっていたのです。そのことが2015年末の苦しみとなり、「教会に来てもおもしろくない」という言葉が教会の中で発せられるようになり、私の心に複雑な深い落ち込みがやってきたのです。恥ずかしいことですが、信頼できる方に相談をしました。何が欠けていたのか。何が悪かったのか。そして良きアドバイスをいただきました。特に災害チャプレンの同労者である阿部氏と吉永氏に相談したところ、東京基督教大学（TCU）でのリトリートへの参加を提案してくださいました。TCUの方からも受入れの案内をいただき、4月初めより、TCUのゲストハウスとなるバルバナ館にて、自分自身の心を整理するために、時間を費やすことになりました。この間の詳細については後ほどお知らせ致します。



2015年末から発生した教会の内乱は、私たちの日常に大きな変動を与えました。

- 1、教会で得られた経済が激減しました。
- 2、経済が激減したことで、活動は勿論のこと、生活にも事欠くようになりました。
- 3、活動を継続するための思案を求めることとなりました。
- 4、その決意は、今まで築き上げてきたことを無駄にしない。
- 5、現地の方々との関係をさらに深く築き、その方々に地域宣証を実践していただく。
- 6、現地で活動するクリスチャンの方々と、互いに情報を共有しつつ活動する。

この様なプロセスで、宣証の実証化を進めています。

4月14日にTCUより仙台に帰宅し、その夜、ニュース速報で熊本地震が報道されました。

「ことは動き続けている」

熊本県で巨大直下型地震が発生したのです。3・11以降、毎年のように巨大災害が発生しています。今回の



震災でも、私たちの心に痛みが走りました。心の疲れが湧いていた状況の中、（何かやらなければ）とスイッチが入りました。だが、経験を積んだはずなのに、「何から」始めるべきかが分からないのです。理由は、震災の現場が遠く離れていることや、震災に取り組むチームとして、その大枠が定まっていなかったためでした。原因が分かれば動きは早いものです。

翌日、支援活動を経験した者が、近くで支えることの重要性をアドバイスされ、熊本に向かうことになりました。活動するための資金については、私自身経済が減少する中でしたが、その必要性も整い、出発することになりました。協働は、東北ヘルプ、国際飢餓対策機構、OM宣教師、基督聖協団、その他の方々で、それぞれができることを通して協力することになりました。

熊本の現場では、当教団、熊本教会の佐藤牧師は、その地域においてよく頑張っておられました。特に、地域の方々との関わり方が良く、今後、地域に貢献する教会になると確信しました。

熊本滞在中、様々なところで同じ言葉を繰り返し聞きました。「まさか自分の住む場所で、巨大地震が起こるなんて…」。

継続的に危機管理の姿勢を持ち続けるのは難しく、（大丈夫だろう）と思ってしまうのです。このように東日本大震災の教訓が、十分に活かされていないのが残念でなりません。しかし、震災後、全てに対してとは言えませんが、救援が迅速に進んでいる様子が見受けられ、良かったとも思っています。

さて、熊本の現場を見て、クリスチャンに伝えたい思いがあります。災害は必ず起こるもので、避けることのできないものです。自然界で繰り返されている生命

の活動、それは自然を管理、支するようにと神さまから人間に託されていると思われます。それにもかかわらず、私たちは往々にして、自然が引き起こす生命の循環に悩まされ続けるのです。自然界が引き起こす生命の循環を、危機として煽り、宗教の押し付けの場としないことです。他宗教者による布教が、快く思えないことを考えれば、これを「機」と考える布教にならないことを願っています。私たちは、自然界をどのように捉えているかを整理しておく必要があります。私たちは神さまの恩恵の元に生かされています。これを忘れて我が物顔でいるところから、複雑な問題が起こっています。

南三陸町に住む漁師さんたちは、海の恩恵を理解しているので、海を責めることはしません。ですが海の恐怖を真に感じているのは事実です。だから龍神を祀って安全を願うのです。私たちも神さまを信じていて、その神さまを伝えたいと願っています。しかし、理解してもらうまでには時間がかかります。かける時間は、相互関係の構築のためです。伝えることに慌てる必要はありません。伝えるに当たり、私たちもまた魂が養われる必要があります。神さまの真意をしっかりと捉えつつ、人が生きるために与えられた自然の恩恵を正しく伝え、それを管理する存在として、人間そのものが正しく成長することが大切です。また、クリスチャンが神さまの思いに沿って生きることが大切で、教会の中だけの生き方ではなく、外に出て実践することです。このように、時間をかけながら、宣証していくことを期待します。私にはそれをサポートする使命があるとも示されています。

今年もすでに半ばを迎えますが、新しい地域（セクター）が構築されているのを感じています。いえ、すでに構築されている所があります。そこでの取り組みは宣教ではありませんが、日本の社会が取り上げている「人が生きる」ための重要な課題です。その課題とは、社会のシステムに乗れないことに起因する「生きることの限界」や「生きられない」ことの危機に関するものです。すでにそれらの問題は起きています。この問題に対して、希望をもたらしてくれるものは何でしょうか？それは、福音を携えた世の光の存在です。その存在が具体的な解決へと導きます。これが存在しなければ、多くの命が闇と化すことでしょう。こうした存在が、どのセクターにも現れるように期待します。私たちの存在は、「生きる価値」と「死ぬ価値」を、文化圏に投じる証人であり、それを地域に伝える役目を担っています。いま、それが始まろうとしています。

尊いご支援を心から感謝致します。



「地域支援ネット架け橋」

前回繰越金：57,831円

活動収入：395,096円 （2016年4月－2016年5月）

萱島キリスト教会、オクダユキコ、基督聖協団目黒教会、カリヒユニオンチャーチ、ハワイホノルルチャーチ、基督聖協団相模原教会、基督聖協団弘前富士見教会、基督聖協団習志野教会、基督聖協団若潮教会、基督聖協団中川教会、基督聖協団上田教会、基督聖協団千葉教会、基督聖協団西入間教会、基督聖協団青梅教会、基督聖協団八王子教会、サトウユキオ、清瀬グレースチャペル、チャペルハーモニー、マツモトノゾミ、船堀グレースチャペル、イザヤ58ネット、NCC「障害者」と教会問題委員会、東北ヘルプ、日本イエスキリスト教団京都教会、基督聖協団本部、基督聖協団信徒会、基督聖協団西仙台教会（敬称省略 順不同）

- * 支出合計金額：452,300円（2016年4月-2016年5月）車両交通費（車両経費含む）、事務費、通信費、啓蒙活動費、ネットワークサポート、衛生費、食費、慶弔費、保険、修繕費、雑費、茶話会（傾聴費）、地域・自治会コミュニティ支援、スタッフ費（0円）、熊本支援（献金合計4万）
- * 次回繰越金：627円



私たちの働きは今後も資金が必要です。お話しする機会も与えて頂き、引き続きご支援、応援の程を宜しくお願いします。



PayPalよりクレジットや海外より応援して頂く事も可能です。アドレスは yoshiko.n36@gmail.com です。

事務局：地域支援ネット架け橋 所在：宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22

電話：090-6628-0628

事務スタッフ：中澤佳子（休職）／架け橋活動スタッフ：中澤義道

【お振込口座】-----私たちの活動のために

七十七銀行 宮城町支店

口座番号: 普 5497795

名義: キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子



【感謝な報告】

- ※ カリヒユニオンチャーチとホノルルチャーチ合同追悼会による尊い献金を預かりました。
\$1362, 25→151,210円<2017年3月南三陸町もしくは気仙沼の追悼記念会に充当します>
- ※ 7月9日～18日 東京基督教大学（TCU）夏期伝道が決定しました。活動場所は南三陸町、登米市、仙台市となります。今回は「思いを訊く」「繋げる」をテーマに現地で活動します。現場に働く者として聞き手が足りない事を覚えてお祈り下さい。